

公益社団法人 栗東市シルバー人材センター

令和5年度 事業計画

【基本方針】

滋賀県の景気は、個人消費や飲食・観光等については感染症の影響も和らぐもとで持ち直し、設備投資は、全体としては穏やかに増加しており、住宅並びに公共投資は高水準で推移して、雇用・所得環境は穏やかに改善していると、「しがぎん経済文化センター」が分析しております。しかし、世界情勢は、ウクライナに象徴される世界秩序の崩壊によるエネルギーや食料の高騰など様々な大きなリスクを抱えています。

このような社会経済状況において、当センターを取り巻く環境は、インボイス制度の実施、(仮称)フリーランス新法等によりセンターの事業運営への影響は大きく、その対応が求められています。

その中で今年度は、コロナ禍による様々な制限から解放されて、活発に思い切った行動を展開できるチャンスと捉え、今までできなかった研修や講習また交流の場を積極的に実行してまいります。

重点項目として

- ①安全就業の強化 ②デジタルリテラシーの向上 ③シルバー交流会の推進強化
- ④SDGsの実践 の4点に取り組めます。

第一に安全就業の強化への取組であります。本年度も、これを最優先に「事故ゼロ」を目指して取り組んでまいります。

第二には、社会は急速にデジタル化が進み、その中で高齢者がデジタル社会の恩恵を享受するために、また、当センターの事業運営がスムーズに効率よく推進するためにも、あらゆる機会を通じて会員のデジタルリテラシー（デジタル技術を理解し適切に活用する技術的な能力）の向上に取り組んでまいります。

第三には、ウイズコロナ（新型コロナウイルスとの共存）における感染対策を行いながらシルバー交流会（旧地区別懇談会）の開催を強力的に推進していきます。コロナ禍によりシルバー会員の交流や懇親が寸断され、従来のセンターの良さや活力が大きく衰退し、魅力が半減している現状を打破するためにも、力を入れて取り組んでまいります。

第四に、当センターは「SDGs」を実践してまいります。日々の業務や活動が持続可能なよりよい未来を築くことに貢献しているのか確認しながら、センターを挙げて持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

【実施計画】

1. 会員の拡大と会員への働きかけ

70歳定年制の導入に象徴されるように、高齢者の活躍の場は大きく広がっています。また、高齢者の就業に対する意識も大きく変化しています。従来からのチラシの各戸配布、「広報誌」による会員募集、更に SNS を利用した広報活動や研修や講習会の開催に力を入れてまいります。

- ① 女性委員会の充実と女性会員対象の講習会や交流会の開催を進めます。
- ② 会員の就業相談に力を入れ、退会抑制に努めます。
- ③ シルバー交流会は、自転車講習会を併用して開催を推し進めます。
- ④ 各種講習や研修会の充実強化に努めます。
- ⑤ デジタル教室を軸に、市民参加の講座・イベントの開催を推進します。
- ⑥ 会員一人一人が広告塔となり、広報活動を推進します。
- ⑦ web 入会システムの充実と周知に努めます。

2. 就業機会の拡大

センターへの発注の中心は清掃、剪定等であり、会員のニーズと一致しない傾向が存在します。会員の意識改革と就業先の開拓により、スムーズな就業機会の提供と拡大に努めてまいります。

- ① 就業先への役員等の訪問活動を行います。
- ② 会員の意識改革に努めます。
- ③ 会員の適材適所を見極めて就業機会の提供を推進します。
- ④ ミスマッチの解消に努めます。
- ⑤ 剪定や除草などの後継者の育成に努めます。
- ⑥ 就業相談の充実に努めます。

3. 就業環境の整備

「安全はすべてにおいて優先する」を最重要課題であると位置づけ「事故ゼロ」を目指します。そのためには、会員の安全就業への意識向上が不可欠であり、安全就業に関する規則の見直しを行い、事故ゼロへの抑止力としてまいります。また、現在行っている安全パトロールも充実強化し、毎月の安全ニュースに具体例を掲載するなど、事故の発生・再発を防止してまいります。これと併せて会員の健康に気を配り、安全で元気に働ける環境を整備し健康寿命を延ばします。公益法人として、地域貢献とともに SDGs の推進にも取り組んでまいります。

- ① 安全パトロールの実施
- ② 熱中症等の注意喚起の情報発信
- ③ 健康診断の受診・口腔ケアの推進(歯科検診の定期的受診)
- ④ 認知症予防の周知(認知機能 AI チェックアプリの利用)
- ⑤ 就業先訪問活動の展開
- ⑥ 安全ニュースによる安全意識の向上
- ⑦ 安全就業に関する規則の見直し
- ⑧ 安全大会・講習会・研修会の実施
- ⑨ 交通安全教育車による運転の適性検査の実施
- ⑩ タブレットで高齢者免許更新時認知機能検査ホンモノ体験アプリを利用
- ⑪ SDGsの周知徹底のための学習や研修の実施

4. 運営体制の強化

運営体制の合理化と効率化を推進するために、一層の情報通信技術の導入を進めてまいります。そのために職員はもとより役員を先頭に会員各位のデジタルリテラシーを進めることが、運営体制の強化につながるものと確信して進めてまいります。

- ① 役員のデジタル研修とともに、理事会のデジタル化を検討してまいります。
- ② スマホを活用したセンターと会員の情報共有の確立に努めます。
- ③ 近隣高校との連携によるスマホの使い方講習会の開催。
- ④ 事務局による積極的な情報提供を行い、理事会や部会の活性化に努めます。
- ⑤ センターと連合会との連携を更に強化します。

5. 地方自治体・関係機関・地域団体との連携

開かれたセンターを構築するために、各種団体との連携を強化します。また、新たな就業機会の拡大のために連携強化に努めてまいります。

- ① 地方自治体をはじめ行政機関・団体との連携強化を図ります。
- ② 各種協議会等に積極的に参加します。